

天内 浪史（あまない・ろうし）

1、プロフィール

明治末年に短歌・川柳で文学を始め、大正8年パストラル詩社に参加、昭和5年県文芸誌「座標」にも参画するなど県詩壇一方のリーダー。また白鳥省吾の「地上樂園」同人。

<生没>

1887(明治 20)年1月 31 日 ~ 1942(昭和 17)年9月5日

<代表作>

詩集『詩車にゆられて』

短歌集『草山の月』

<青森との関わり>

黒石市で生まれる。明治 35 年黒石小学校を卒業、以後昭和 18 年まで、南津軽郡の小学校に勤務。県内の詩壇・歌壇・柳壇にわたって広く活躍。

2、作家解説

本名実。柳号浪史。明治 20 年黒石市大字市の町 30 番戸で、父桃太郎・母なみの四男として生まれる。35 年黒石小学校を卒業、以後昭和 18 年まで、南津軽郡の小学校に勤務。

明治 42 年和田山蘭らの短歌会蘭菊会に投稿。44 年黒石の浮雲会に浪子の柳号で参加。同年山蘭、加藤東籠らの歌詩「東北」に参加する。

大正8年一戸玲太郎・桜庭芳露らと、県内詩社のさきがけパストラル詩社を興す。13 年黒石に新聞「鳥城の魁」が創刊されると、日曜文芸欄に諸種の作品を投稿、10 年以上に及ぶ。昭和2年黒石で中村海六郎・加藤祥文・斎藤直樹らと文芸誌「地下室」(後、「三角塔」と改題)に同人として参加。

昭和5年、県下文芸総合誌「座標」が創刊されると詩部門の委員となり作品を発表する。同年12月、白鳥省吾主宰の「地上樂園」の同人となり自選詩集『詩車にゆられて』を出版する。

昭和10年弘前で沙和宋一・古川英雄・下山俊三らが弘前創作会を結成すると、浪史も参加し、「東北文学」の創刊をみたが、同誌第3号に「余りにも小説的な話」という短篇を発表の後は書かなくなった。昭和11年個人経営のリーフレット「弘前雑筆」を創刊し、島口好夫の筆名で雑筆を載せ、15年まで続刊。

昭和17年9月5日没し、黒石市保福寺に埋葬。法名俊良院実学浪史居士。

40年黒石市浄仙寺境内に「野菊」の詩を刻した文学碑が建てられた。

3、資料紹介

○『詩車にゆられて』

図書

1930(昭和5)年12月20日

200mm×140mm

発行者が「地上樂園」主宰の白鳥省吾で、大地舎から刊行。松木満史装幀。浪史自選の詩89篇を収める。短詩が多く、孤独感を基底にした平明枯淡な心境を吐露した作品に浪史の詩の特徴を見ることができる。